

2011 十勝の夏

羽田を飛び立って1時間 半、十勝を初めて訪れる人々には襟裳岬から帯広空港までの機内から眺める広大な十勝平野にまず心を奪われます。緑の絨毯（じゅうたん）のように広がるビート畑と黄金色の小麦畑は夏の十勝を象徴する美しさです。この景色は本州のそれとは全く異なり訪れる観光客を感動させてくれます。

東京では3月の東日本大震災より節電が求められ、今年の夏は計画停電の実施

も検討されていました。そこで毎年8月に東京で開講していた「夏休み親子パン教室」の開講を見送り、小学5年生の男児とお母さん2組が十勝を訪れることになりました。彼らと初めて

出会ったのは3年前、小学2年生でした。毎年十勝の小麦を使ってパンはもちろん、うどんやクッキーなどを作り、夏休みの自由研究にしていました。そして今年には十勝の小麦畑を見に行こうと東京からやってきて

かちまい 論壇

くれました。小学5年生の彼らに見せたい「十勝の夏」を求めて5日間、私も一緒に十勝を旅してみました。

す。この光景には十勝育ちの私も感動を覚えますが、少年たちは歓声を上げて畑の周りを走り出しました。

せてもらい、茹（ゆ）でたりだけではなく、四季折々の十勝もご紹介しています。以前から東京の生徒さんを十勝に招き、地元の生徒さんたちと一緒に小麦の種まきや小麦刈りの体験などを企画してきました。十勝の大地に感動する参加者たちの姿を見るたびに改めて十勝のダイナミックな自然のパワーを感じています。

さて暑かった東京の夏もそろそろ終わります。十勝の夏を満喫した少年たちも真っ黒に日焼けして元気に2学期を迎えていることでしょう。

8月初旬、初めて十勝にやってきた彼らが小麦畑で目にしたのは収穫中の大型コンバインでした。黄金色の小麦畑をアツと言う間に刈り取っていくコンバインは十勝の夏の風物詩で

な道、丸い地平線、両手いっぱいには広がる青い空。ぱんをひたすら走り回る。農家さんはジャガイモ掘りをさ

毎日食べて走って元気いっぱい十勝を満喫して帰って

さして暑かった東京の夏もそろそろ終わります。十勝の夏を満喫した少年たちも真っ黒に日焼けして元気に2学期を迎えていることでしょう。



夢工房 Y. b. H.
代表
「十勝産小麦パン教室」主宰

早川 喬恵

十勝の農産物や乳製品は都会でも人気ですが、十勝の地で味わうおいしさはまた格別なものがあります。東京のパン教室ではパン作

しう。